

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000072		
法人名	有限会社エイプラスアール		
事業所名	カサブランカグループホーム八木		
所在地	兵庫県明石市大久保町八木642-6		
自己評価作成日	令和1年10月29日	評価結果市町村受理日	令和1年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp">http://www.wam.go.jp</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和1年10月30日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設はコンパクトに設計されていますが、フロア全体に職員の目が行き届き安心感があると利用者様、家族様に好評を頂いております。利用者様の日々の変化を見落とさないよう細心の注意を払い、介護保険法によるプランに基づく明確な目標を設定し、職員全体がチームとなり目標を達成できるよう支援しています。毎月のミーティング及び日々の申し送りにより、利用者様の日々の変化や意向の確認が全職員に共有でき、支援の変更もスムーズに行えています。毎月のお便りの発信等により、本人様と家族様の関係性もより保たれ不安軽減に繋がっています。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・明石市で初めてのベトナムより5名を社員として採用現在2名が当施設で実習中でありこの背景をきっかけとして、従来法人事業所間でバラツキが見られたレク方法、虐待研修等法人全体での見直し等体制再構築に取り組んでいる。・提携医及び同所属看護師との連携が密に取られ、日々の状態変化時に医師の指示が迅速に受けられる。  
【工夫点】・介護度が重度化の傾向にあるが、外出はその人らしく暮らし続ける支援のために重要であり短時間でも戸外に出る機会を大切に、車いす対応の車を購入し週1回は全利用者でドライブに出かけ、お花見や6月あじさい見学、公園や神社へ出かけたり戸外で気持ちよくすごせるよう工夫している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎日唱和することで職員に意識づけをしている。	事業所理念は玄関及びユニット掲示し、ベトナム女性社員2名も加わり毎日唱和への意識付けが職員の共有、実践の推進背景ともなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。 地域のイベントや事業所の運営推進会議、イベント等の相互の連絡や参加の呼びかけ。また、参加して頂いたり地元のボランティアの方々に来て頂いている。	事業所として西八木地区町内会に参加し地域イベントに職員と共に参加したり、地元ボランティアによる交流等事業所自体が地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で行う毎月のイベント等に参加を呼びかけ、実際に行っている支援や関り方を見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様に状況の報告。心配事の相談含め、意見交換を行うことでサービス向上に活かしている。	運営推進会議は併設の小規模多機能型主体に参加の仕組みとしている。介護現況、ヒヤリ・事故等報告、行事等は開催時写真等楽し雰囲気伝え、話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連絡し、日頃から関りを持ち分らない事等連絡を取り相談している。	代表が市の当該分野の会合に参加しており、日頃から関りを持ち、事業所実情やケアサービスの取組をしながら協力関係を築く取組をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例を具体的に掲示し、ミーティングで何度も話し合い、時には運営推進会議にも提示し、意見交換を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについてミーティング研修や運営推進会議で事例を具体的に提示し、意見交換を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関施錠は日中はフリーとしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で情報共有を行い虐待防止に努めている。気になったケースやTV等で耳や目にしたケース等、ミーティング等で話し合っている。社内研修を随時行っている。虐待行為を疑われる職員とは面談を行い、認められた場合は処分している。	ミーティング研修や社内研修を行いTVで話題になるケースや気になるケース等研修時に意見交換し虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある利用者様には活用できるよう、市町村に相談、助言をもらうなどしながら支援している。社内会議、ミーティング等でその内容について研修をする準備を進めている。	当該制度の必要のある利用者に関し個々の市等と話し合いやパンフレット等入手し、それらを活用できるよう支援している。社内会議やミーティング等で更なる研修を計画し、活用への準備中である。	外国出身の新入社員教育も含めた権利擁護に関する制度の理解と活用に向け、計画的な推進が望まれる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って説明を行っている。施設側で出来る事、家族様にお願いする事を明確に、また料金についても十分に説明を行うようにしている。解約時や外泊時の注意点等も説明を行っている。	契約等や改訂等は、所定の資料を基に施設側で出来る事、家族にお願いする事を明確にし、家族の関心事のターミナルケアでは、当施設関連の内科クリニックとの現状等十分な説明を行い理解・納得を図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様ご家族と連絡を取っている。意見・要望は何かあればすぐ寄せられる。ご意見箱設置や運営推進会議で出てくることもあり、ミーティングで共有し、反映させている。	日頃の家族との連絡を密に取り、意見・要望には迅速対応し、玄関に意見箱も設置や運営推進会議に参加もあり、それらを運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は普段からミーティング等で報告し、順次反映させている。	運営に関する職員の意見や提案を聴く機会として法人本部より2名来社面談を行い「役職への道」への意見交換を行い、これらからの意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々との面接、相談の機械を設け、努力を認めたり悩みが出せるようにしている。向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の方を招き、おむつや福祉用具（車椅子の選定、体位保持）の研修を行った。毎月何らかの研修を行っている。これからも継続予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム介護部会定例会、大久保地区在宅サービスゾーン協議会等に参加し、同業者や地域の人々、医療関係者、保険者と交流しサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望に耳を傾け、ゆっくりと話しをする機会を持つようしている。環境の変化に配慮し、安心が確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至った経緯やそれまでの背景をお聞きし、家族様の思いに耳を傾け、家族様が安心できるように信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのかを考え、ご本人にとって本当に必要なサービスであるか見極めるように努めている。その中で他のサービス利用も視野に入れた対応をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ってもらったり、家事を手伝ってもらったりなど、本人の能力が活かせる機会を作り、人生の先輩として知恵をお借りする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子や本人の気持ちを家族にお伝えし、情報を共有して共に支えられるように努めている。また、様子をお伝えするお便りも毎月出している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との面会や外出を通して、これまでの馴染みの関係が途切れないように努めている。	これまでの地域社会との関りを継続していくために、その関係性を把握して今までの延長線であるよう馴染みの関係を大切にしている。週1回親戚やお孫さんが訪れる方や連休に家族と出かけたり交流できるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の顔が見えるよう座席を配置し、関わり合えるよう、コミュニケーションが弾むよう会話の橋渡しをするなど支援している。また、トラブルが起きないよう関係を把握し、席替えをするなど調整に努めている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、相談や近況報告を受けたりしている。必要があれば関係機関に働きかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に、一対一で関わる時間を大切にしている。利用者の希望の中には食に関する内容が多く、レク等を行い希望の実現に努めている。	日々の関わりの中で言葉や表情などから真意を押し量り、本人にとってどこで暮すのが良いかの視点にたち職員間で話し合い取組んでいる。目標を立てレクレーションの時間帯を決め取組み、生活リズムメリハリをつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、馴染みの知人等から得た情報を共有し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況、精神状態の把握に努め、ケアに取り組んでいる。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを大切に、スタッフと話し合いながら介護計画を作成している。毎月のミーティングにてモニタリング実施している。	本人や本人をよく知る家族や関係者と本人本位で話し合い、気づきや意見を聞いて反映させるようにしている。月1回のフロアーティングを有効に活用しアセスメントを含め全員で意見交換を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別記録に記入し、情報の把握、共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の小規模多機能やデイサービスとの交流を持ち、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方に野菜作りのアドバイスを頂いたり、収穫物を頂いたりしている。施設内の畑での作業に活かし、収穫祭も行っている。地域のボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には提携医の定期訪問診療(24H体制)を利用頂いているが、希望があれば他医の受診に同行している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。毎日提携の往診を受けることができ相談体制が十分整っている。24時間看護師や医師からの指示や緊急訪問も可能で医療体制が整備され、又早期発見に取組み、適切な医療が受けられる仕組みとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療体制加算を頂き、24Hで見てくれる協力医との連携もある。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者に情報提供し、退院時は医療地域連携室と情報交換し、早期に退院できるように相談するよう努めている。また、家族様の同意が得られれば入退院時説明に同席している。	入院によるダメージを極力減らすため医師と話し合い、事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにする。入院時には提携医から病院へ紹介状をもとに情報提供を行う。家族等と状況の情報交換して速やかな退院支援に結びつけている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、掛かりつけ医と相談しながら支援している。施設の看取りの方針に沿って話し合っている。	契約時には看取り指針をもとに説明し事業所が対応し得る最大のケアについて説明し意思確認をおこなう。本人、家族の意向を踏まえ、医師、看護師と連携をとり安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿った対応をしている。研修会や訓練を実施し、実践力が見につくよう努めている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応マニュアルに沿った対応をしている。研修会や訓練を実施し、実践力が見につくよう努めている。	年2回消防署立会の避難訓練を緊急時対応マニュアルに沿って実施し、これらの訓練や研修等で昼夜を問わず利用者が避難できる実践力向上に努めている。備蓄は食料材との区分けが未。	避難訓練にあたり地域住民との連携推進が期待される。また備蓄に関し、災害備蓄の明確な整備管理が望まれる。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応に気を配っている。人生の先輩として接するよう心掛け、排泄時や入浴時等、プライバシーが確保出来るよう配慮している。	職員が利用者に向け発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけていないか、日常的な確認と改善に向け取り組んでいる。年長者としての敬意を払い、まずはその人の気持ちを大切に考えさげないケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉をゆっくり聞くよう心掛けている。何もない所からの表現は難しいので、選択肢を示して選んで頂くように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの、その日その時の体調や気持ちに合わせ、調整するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「似合っている」や「素敵ですね」等、積極的に声を掛け、本人の身だしなみへの関心が保てるよう働きかけている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けを一緒にしている。食材や調理法について話題にし、食への関心や楽しみが増すよう働きかけている。月に数回は昼食やおやつを一緒に手作りしている。	食事が楽しみなものとなるよう畑で収穫したきゅうりやプチトマト等の野菜を食事に添え旬の食材や新鮮なものを探り入れてる。立位での調理や盛り付けは難しいが片づけ等個々の力を活かしながら前向きな意思やきもちを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握をし、体調や希望に応じて時間をずらしたり、間食で調整するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを促している。就寝時には義歯の洗浄、消毒をしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の習慣、パターンを把握し、トイレ誘導している。できる方には極力トイレで排泄して頂くように心掛けている。	出来るだけトイレでの排泄を目標とし、本人の生活リズムに添う支援に努めている。平均の介護3、7と重度化傾向だが利用者の身体能力に応じ手を差し伸べたりし歩行介助をしている。ミテイングで対応について繰り返し検討し常に見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操し、身体を動かすよう働きかけている。水分摂取に注意し、自然排便が困難な場合には医師と相談しながら下剤を服用して頂いている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望や体調・タイミングを考慮しつつ、週2～3回入浴できるよう調整している。協力医や看護師に相談を行い、皮膚トラブルにも考慮検討後、月に1週入浴剤を使い色々な入浴を楽しんで頂いている。	週2回利用者のその日の体調や希望に合わせて入っていただく。職員と1対1でゆっくり会話を交わし一人ひとりに合わせた入浴支援を行う。移乗に介助が必要な方には職員2名体制で対応している。個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の体調に合わせて休息を取って頂いているが、日中はできるだけ起きておくよう働きかけ、昼夜逆転しないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつの服薬リストを作成している。処方通り正しく服薬できるよう支援している。変化が見られた時には医師に連絡相談し、対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野が活かせるよう見守りの中、個人に合ったお手伝いをお願いし、役割を持ってもらう事で喜びや楽しみのある日々を過ごして頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者は法人内の体操教室に参加するなど、自立や意欲を尊重している。月ごとに桜や藤の花見や明石海峡大橋などに出掛け、季節を感じて頂いている。毎月1回、会社の車にてドライブを実施している。	外出はその人らしく暮らし続ける支援のために重要であり短時間でも戸外に出る機会を大切にしている。車いす対応の車を購入し週1回は全利用者でドライブに出かける。お花見や6月あじさい見学、公園や神社へ出かけたり戸外で気持ちよくすごせるよう工夫している。	



自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はトラブル回避の為、手元には置かず事務所預かりとさせて頂いている。買い物時には可能な方には本人に手渡し、支払いもできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事情により、電話が掛けられない方もいるので、時間帯や使う電話の設置場所を考慮しながら家族様了承の下、できるだけ希望に添えるよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめな換気を心掛けている。季節に合った壁飾りを一緒に作成している。食堂兼居間の狭い空間である為、生活時間がズれてしまう方がある場合には個々の居室を使用するなど配慮している。	共用の空間は、不快や混乱を招く刺激が無いよう配慮し、こまめな換気を心掛け、季節に合った壁飾りを一緒に作成掲げ、食堂兼居間での生活時間のズレを感じる方には個々の居室使用などの配慮をし居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士、個々の居室を行き来し、おしゃべりをするなどして楽しまれている。敷地内の庭でお茶を飲み、ゆっくりと過ごせるように働きかけている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んで頂いている。整理等お手伝いさせて頂くが、本人の意見を尊重するようにしている。	居室は、使い慣れた家具等を持ち込んで頂き、使い慣れたものや好みを活かし本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる事」が継続して行えるよう利用者、スタッフの意見を取り入れ、改善・工夫を加えながら環境作りに取り組んでいる。		